

第 55 回大会準備状況

教育史学会第 55 回大会は、2011 年 10 月 1 日(土)・2 日(日)に京都大学(吉田キャンパス)で行います。京都大学における大会の開催は、第 21 回大会(1977 年)以来ですので、34 年ぶりとなります。

シンポジウムでは、準備委員会で議論をかさねた結果、「大学史」をテーマとしてとりあげることとなりました。次のような内容で企画を進めています。

テーマ：教育史研究における大学史研究の位置

日 時：2011 年 10 月 1 日(土) 14:00～17:45

場 所：京都大学医学部芝蘭会館 稲盛ホール

報告者：ハインツ＝エルマー・テノルト

(ベルリン・フンボルト大学)

寺崎 昌男(立教学院)

指定討論者：

児玉 善仁(帝京大学)

西山 伸(京都大学)

司会者：別府 昭郎(明治大学)

鈴木 晶子(京都大学)

《趣旨》

大学史研究は、中等教育史のような研究領域と並立する、教育史研究の一分野という性格をもつ。他方で、教育史という専門分野の成立と変容のプロセスは、それ自体として大学における学問史の一部をなしてもいる。大学史が教育史の一部でもあり、教育史が大学史の一部でもあるという、合わせ鏡のような構造が存在しているともいえる。この構造は、教育史研究にどのような課題を投げかけているのか。教育史研究における大学史研究の位置はどのようなものであり、どのような立脚点から大学史を叙述すればよいのか。世界的にも大学が巨大な変動にさらされている今日であるからこそ、大学を大学たらしめると考えられてきた諸制度に即して、原理的かつ歴史的な検証を行うことが必要といえる。

大学を大学たらしめると考えられてきた諸制度として、学位制度や学部組織を挙げることができる。文・理・法・医といった学部の伝統的分類は中世ヨーロッパに起源する学問体系を基礎とするものであり、専門学のディシプリンが学部創設の前提とみなされてきた。ディシプリンとこれに基づく学問研究の「水準」への評価は、学位制度や

講座制と相まって「学部自治」の基盤を提供するとともに、学問分野間の優劣、大学間の格差、大学の構成員間(正規・非正規教員、職員、学生)の序列を形作る要素ともなってきた。ただし、今日では「専門学の液状化」とも称されるように、ディシプリンという概念の存在根拠自体が危うくなってきている。こうした事態の中で、ベルリン大学の創設者フンボルトによって定式化された諸原理(国家に対する自律性、教える者と学ぶ者による共同体、研究と教育の統一、etc.)はどのようなリアリティとアクチュアリティをもちうるのか。大学と国家との関係、大学における教える者と学ぶ者の関係は歴史的にどのような問題をはらんできたといえるのか。このような問いを立てることが、従来の教育史研究の視野をどのように拡張・再編していくことになるのかを含めて考えてみたい。

報告者として、ドイツと日本を代表する教育史学者をお招きする。

ドイツからお招きするハインツ＝エルマー・テノルト教授はドイツ教育史学会会長などを歴任し、ベルリン・フンボルト大学教育学研究科教授として『ベルリン大学 200 年史(Geschichte der Universität Unter den Linden 1810-2010)』(2011 年中に全 6 巻刊行完了予定)の監修者を務めた。

寺崎昌男会員は本学会代表理事・日本教育学会会長などを歴任したほか、東京大学教育学部教授として『東京大学百年史』(全 10 巻、1984 年-1987 年)編集事業で中核的な役割を果たした。

東京大学の前身たる帝国大学の創設期においてベルリン大学が重要なモデルの一つとされたことはよく知られた事実である。ベルリン大学、東京大学それぞれの沿革史編纂の経験に基づく発表を通じて、何が大学をめぐる普遍的な問題であり、何がローカルな環境との相互作用の中で生じた事態なのかを見極める上で手がかりとしたい。さらに、大学沿革史の編纂体制や、大学史研究の内容を博物館における展示や講義室における授業を通じて共有していく手法についても、ドイツと日本の比較を通じて問題点を明確化していきたい。

なお、テノルト教授の発表については事前に日本語訳を配付し、ドイツ語で行う。質疑は逐次通訳で行う予定である。

シンポジウムの企画にあわせて、京都大学大学文書館において新制京都大学教育学部の創設など京都大学における教育学研究の歴史にかかわる特別展示も予定しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

コロキウムに関しては、名古屋大学における第53回大会以来の方針を踏襲して、開始時間を繰り上げて15時頃から行う予定です。近年はコロキウムの企画数も増加傾向にあり、再び活性化してきたように感じます。さまざまな形で組織されている共同研究の成果を問う機会としても、ぜひご活用ください。

大会においてシンポジウムやコロキウムの企画が重要な位置を占めていることはいまでもありませんが、大会の「充実度」を左右するのは、やはり個人発表であるかと思えます。日頃の研究成

果を問う個人発表が数多くなされることを期待しております。

なお、大会の事務につまざる詳細につきましては、同封の「教育史学会第55回大会 開催のご案内」をご覧ください。

宿泊については大会準備員会では斡旋いたしません。10月初頭の京都はすでに観光シーズンに入っており、ホテルは早い時期に満室となりがちです。早めのご予約をおすすめいたします。

知的な刺激と緊張感に満ちた大会となるように準備委員会としてもできるかぎりの尽力をいたしますので、多くの方のご参加・ご発表を心よりお待ちしております。

第55回 大会準備委員長
駒込 武 (京都大学)

機関誌編集委員会からの報告

機関誌編集委員会委員長 梶山 雅史

機関誌編集委員会を5月7日に国立教育政策研究所で開催し、『日本の教育史学』第54集掲載論文を下記のとおり決定しました。

投稿受理論文数は日本19本、東洋2本、西洋3本、合計24本でした。今回は投稿論文のうち、文字数超過3本、提出期限超過2本、計5本が不受理になりました。今後、投稿する方は十分注意してください。

また、今号には「公開セミナー 中国における教育史研究の現在」の報告論文を特別寄稿として掲載します。

- (1) 開拓使の教育政策の転換
——1874年学務局・学務係設置を
支点として——
井上 高聡（北海道大学）
- (2) 教育令制定過程の再検討
湯川 文彦（東京大学大学院・院生）
- (3) 「小学校規則及小学簡易科教則」下の北海道における小学校の実態
——石狩郡親舟町外9町3村の小学校を中心——
坂本 紀子（北海道教育大学函館校）
- (4) 百貨店における教育
——店員訓練の近代化とその影響——
江口 潔（芝浦工業大学）
- (5) 1940年代前半における教育雑誌統制策
——国民教育図書株式会社・国民教育研究所に注目して——
小林 優太（名古屋大学大学院・院生）
- (6) 憲法改正過程における教育条項の修正
——義務教育の範囲と青年学校改革案との関係を中心として——
大島 宏（東海大学）
- (7) 占領期京都市における朝鮮人学校政策の展開
——行政当局と朝鮮人団体との交渉に着目して——
松下 佳弘（京都大学・聴講生）
- (8) 戦後夜間中学校の研究
——東京都夜間中学校日本語学級の開設に着目して——
大多和雅絵（横浜市立学校）
- (9) フランス第三共和政期前半における女子中等教育と「家庭教育」
——週刊誌『ル・プチ・エコー・ド・ラ・モード』の分析を中心に——
井岡 瑞日（京都大学大学院・院生／
日本学術振興会特別研究員）

* 図書

- ・清水寛『シリーズ 福祉に生きる 57 近藤益雄』大空社 2010.10
- ・田中喜美・木下龍『アメリカ合衆国技術教育教員養成実践史論—技術教育のための「大学における教員養成」の形成—』学文社 2010.10
- ・梶山雅史編著『続・近代日本教育会史研究』学術出版会 2010.11
- ・七木田文彦『健康教育教科「保健科」成立の政策形成—均質的健康空間の生成—』学術出版会 2010.11
- ・山田恵吾『近代日本教員統制の展開—地方学務当局と小学校教員社会の関係史—』学術出版会 2010.11
- ・安彦忠彦・石堂常代著『最新教育原理』勁草書房 2010.11
- ・辻直人『近代日本海外留学の目的変容—文部省留學生の派遣実態について—』東信堂 2010.12
- ・青柳宏幸『マルクスの教育思想』白澤社 2010.12
- ・荒井明夫『明治国家と地域教育』吉川弘文館 2010.12
- ・『キリスト教学校教育同盟百年史 年表』キリスト教学校教育同盟 2010.12
- ・石岡学『「教育」としての職業指導の成立—戦前日本の学校と移行問題』勁草書房 2011.1
- ・田口喜久恵『近代教育黎明期における健康教育の研究』風間書房 2011.1
- ・山内規嗣『J・Hカンペ教育思想の研究—ドイツ啓蒙主義における心の教育—』ミネルヴァ書房 2011.1
- ・『タイムトラベル中大 125 1885→2010』中央大学 2011.2
- ・國分麻里『植民地期朝鮮の歴史教育—「朝鮮時歴」の教授をめぐる—』新幹社 2011.2
- ・橋本紀子・木村元・小林千枝子・中野新之祐編『青年の社会的自立と教育—高度成長期日本における地域・学校・家族—』大月書店 2011.3
- ・河田教子著『近代日本地方教育行政制度の形成過程』風間書房 2011.3
- ・辻本雅史『思想と教育のメディア史—近代日本の知の伝達—』ペリかん社 2011.3
- ・駒込武・川村肇・奈須恵子編『戦時下学問の統制と動員—日本諸学振興委員会の研究』東京大学出版会 2011.3
- ・對馬達雄著編『ドイツ 過去の克服と人間形成』昭和堂 2011.3
- ・宮野安治・山崎洋子・菱刈晃夫『講義 教育原論—人間・歴史・道徳—』成文堂 2011.3

* 紀要・ニューズレターなど

- ・『東アジアの思想と文化』第3号 東アジア思想文化研究会 2010.10
- ・『新勤評反対訴訟団ニュース』第36号 新勤評反対訴訟団 2010.10
- ・『名古屋大学大学院教育発達科学研究科 紀要(教育科学)』第57巻 第1号 2010.10
- ・『新勤評反対訴訟団ニュース』第37号 新勤評反対訴訟団 2010.11
- ・『大学教育学会誌』第32巻 第2号(通巻第62号) 大学教育学会 2010.11
- ・『幼児教育史研究』第5号 幼児教育史学会 2010.12
- ・『幼児教育史学会 会報』第10号 幼児教育史学会 2010.12
- ・『教育史研究室年報』第16号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育史研究室 2010.12
- ・『新勤評反対訴訟団ニュース』第38号 新勤評反対訴訟団 2010.12
- ・『ディルタイ研究』第21号 日本ディルタイ協会 2011.1
- ・『教育論叢』第54号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教育科学専攻 2011.2
- ・『中央大学史紀要』第16号 中央大学史料委員会専門委員会 2011.3
- ・筑波大学『教育学系論集』第35巻 筑波大学教育学系 2011.3
- ・『名古屋大学大学院教育発達学研究科 紀要(教育科学)』第57巻 第2号 2011.3
- ・武蔵大学『人文学会雑誌』新田春夫教授記念号 第42巻 第3・4号 武蔵大学人文学会 2011.3
- ・『立教学院史研究』第8号 「立教学院史研究」編集委員会 2011.3
- ・『日本仏教教育学研究』第18号 日本仏教教育学会 2011.3
- ・『戦後教育史研究』第24号 明星大学戦後教育史研究センター 2011.4
- ・『中央大学史資料集』第23集 中央大学史料委員会専門委員会 2011.5

* 抜き刷り

- ・森川潤「青木周蔵の渡独前の修學歷(1)—寺子屋での学習時代—」『広島修大論集』第51巻 第1号 広島修道大学 2010.9
- ・森川潤「萩藩医坪井信道—萩藩における蘭学導入の経緯について—」『広島修大論集』第51巻 第2号 広島修道大学 2011.3

事務局からのお知らせ

3月11日の東日本大震災はたいへんな被害を東日本各地に与えました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

1. 事務局の移転について

すでにお知らせいたしておりましたが、事務局が京都大学から九州大学に移転いたしました。新事務局は以下の通りです。

事務局長：新谷 恭明 / 事務局長補佐：野々村 淑子 / 事務局嘱託：永田 香織
連絡先：〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目19-1
九州大学大学院人間環境学研究院・新谷研究室気付 電話：092-642-3112
E-mail：jseh@yahoogroups.jp
電話は繋がらないことが多いので、E-mailをご利用ください。

2. 理事会の開催延期について

第54回大会年度第2回理事会は3月28日に開催の予定でしたが、東日本大震災に伴う諸混乱もあり、延期することといたしました。急を要する議題についてはメールによる仮理事会により承認を得ることとし、同日付で実施いたしました。

3. 書評委員の選出について

書評委員会規程により次年度書評委員を選出することになりました。前述の仮理事会に於いて以下の通り決まりました。

■第55集書評委員

日本：沖田 行司 (同志社大学)	西洋：遠藤 孝夫 (岩手大学)
小山 静子 (京都大学)	白水 浩信 (神戸大学)
湯川 次義 (早稲田大学)	東洋：大塚 豊 (広島大学)
	北村 嘉恵 (北海道大学)

4. 会費納入のお願い

2010年9月より第54回大会年度がスタートしております。今年度会費および過年度会費をお支払いいただいていない会員の方には、振り込み用紙を同封させていただきましたので、納入にご協力ください。

なお、年会費は「ゆうちょ銀行」(郵便局口座)からの自動引き落としによる納入ができます。事務効率化のためにぜひともご協力をお願いいたします。ご希望の方は、事務局までお申し出ください。必要書類をお送りいたします。

5. 会員登録変更等について

事務局や機関誌編集委員会などからの学会事務にかかわる連絡はご登録いただいた連絡先へ行っていますが、宛先違いで戻ってくることも少なくありません。ご登録いただいた連絡先等が変更したときにはかならず事務局までご一報ください。

6. ホームページの移転について

学会のホームページは国立情報学研究所「学協会情報発信サービス」の提供するサーバーから新しいサーバーに移転いたしました。新しいホームページのURLは以下の通りです。

<http://kyouikushigakkai.jp/>

7. 東日本大震災への対応について

東日本大震災に対して教育史学会としてできることを理事間で検討し、「歴史資料ネット」への支援を行うこととしました。具体的には新しいホームページをご覧ください。

事務局 新谷 恭明